

2019年1月クルディスタン報告書

Reporta Kurdistanê Çileyê 2019'ê

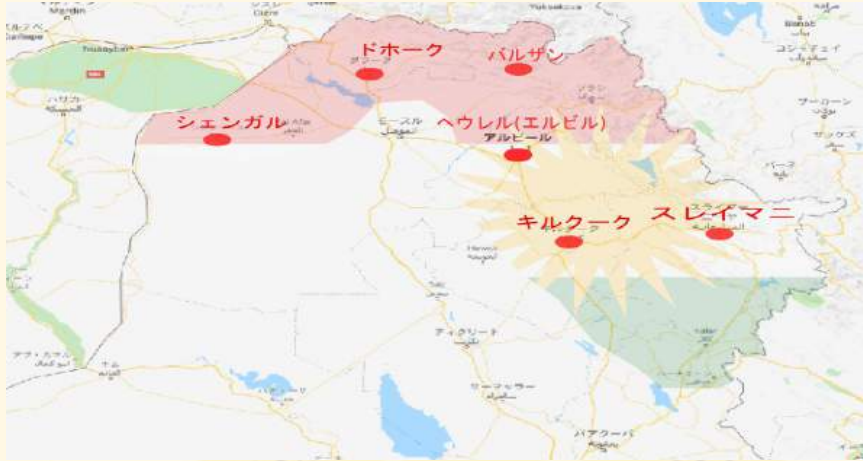


出典:パリ・クルド研究所

一般社団法人 日本クルド友好協会

南クルディスタン（イラク北部クルディスタン地域）

Başurê Kurdistanê



政治動向

▶ 停滞する新政権樹立

クルディスタン地域政府(KRG¹)新政権樹立の見通しは年を越しても未だ立っていない。昨年の選挙で大勝し政権樹立を主導するクルディスタン民主党(KDP²)側からも不満が出ている。クルディスタン地域議会のKDP議員団代表は2日、他勢力との交渉において余計な内容は控え新政権樹立に関する内容に全力を注ぐべきだと要求した[2日、クルディスタン24]。KDP議員は同党寄りメディアの取材に対し、ネウローズまでには新政権樹立にかたをつけると発言した[16日、バスニュース]。29日には新政権樹立のためのKDP、PUK、ゴラン³(変化運動)の重要な会談がPUK側の申し入れによって延期された[29日、PUK]。KDP側は折角ゴランの同意を取り付けたのにPUKが議論に応じようとしないと不満を口にしている。

KDPはこの重要な時期に些細なことから、イラク・クルディスタン地域の「二大勢力」としてKDPと協力関係にあるクルディスタン愛国者連盟(PUK⁴)と衝突の危機に陥った。KDPは2日、ヘウレル(エルビル)のPUK支部の指導部を逮捕した[3日、ルダウ]。昨年PUKの治安部隊はKDPに近い部族勢力の指導層に属する者を逮捕していた。純粋に違法行為に対する取り締まり活動であったとPUKは発表しているが、KDPの報復措置を招いた。6日KRG首相ネチルワン・バルザニはKDP、PUK双方を非難し、両党は摘発していた人々を釈放した[6日、ルダウ]。

1 英語名 Kurdistan Regional Government の略。クルド語では、Serokayetiya または Hikûmeta(前者がクルド語、後者がアラビア語で政府の意) Herêma(地域) Kurdistanê。参照：[クルディスタン地域政府大統領府公式サイト](#)
 2 英語名 Kurdistan Democratic Party の略。クルド語では、Partîya(党) Demokrata(民主) Kurdistan を略して PDK。また単に Partîとも呼ばれる。
 3 2009年にPUKより分離してできた政治勢力。クルディスタン地域では第3の規模を誇る。
 4 英語名 Patriotic Union of Kurdistan の略称。クルド語では、Yekîtiya(統一) Nîşmanîya(民族主義者) Kurdistan を略して YNK。また Yekîtiとも呼ばれる。

KDP 側はイラク全国、クルディスタン地域双方の選挙で大勝し余裕をもって新政権樹立に臨んでいる。後述するように野党と見られていた勢力も抱き込み、クリスチャン、テュルクメンにも重要ポストを用意としている。ポストや利権の数は無限ではないので PUK の権益を毀損することにつながりうる。それが PUK 側に歴史的背景もふまえた KDP への疑念を呼び起こしている。

▶第三勢力の動き

KDP—PUK 以外で最大勢力のゴランは新政権に参加する意向を示す。昨年 9 月の選挙の際には他の少数政党と共に結果を拒否する姿勢を示し、野党第一党となると見られていた。そのためゴラン政権参加は交渉を長期化させる要因になると見られる。ゴランは新政権で[安全保障に関するポストを要求](#)している[21 日、ルダウ]。安全保障委員会で 3 番目に大きな権限を有する地位と、ペシュメルガ省と内務省のポストも要求している。ペシュメルガを保有しないゴランはかつて自らの部隊創設を検討したことがある。ゴランは PUK の治安部隊に度々事務所を襲撃される憂き目にあってきた。KDP—PUK の権力の背景には軍事力があることを痛感している。

他の少数派も政府に参加する意向を示す。クルディスタン・イスラム協会（通称：協会）指導者アリ・バピルは 25 日、[同勢力が新政権樹立に反対しているという報道を否定し、新政権樹立を巡る交渉に参加する用意があると発言](#)した[25 日、ルダウ]。KDP 側と協会側は 31 日、[会談を行い KDP 政治局長ファジル・ミラニと共同で声明を発表](#)した[31 日、ルダウ]。



バピルは KDP を最大の責任ある政党であると賛辞を送った。しかしゴランとは異なり新政権でどのようなポストを求めていくのかはまだはっきりしていない。同じくイスラム政党のクルディスタン・イスラム協会（KIG⁵）はスタンスを異にする。同党議員ムスリム・アブドゥッラーは 6 日、[KIG は KDP—PUK に対抗するため新世代に合流する用意があると発言](#)した[6 日、NRT]。野党勢力は極少になるとみられるが、新世代は自党への「弾圧」への措置を中央政府に求めているように、中央とのパイプを頼りに新政権と対峙していく可能性がある。中央政界で大きな力をもつシーア聖職者アンワル・ハキーム率いる改革連合は 28 日、[新世代を支持する声明](#)を出した[28 日、NRT]。声明の中で新世代は「愛国的だ」と称賛された。新世代はイラク国民議会では同会派に属している。

⁵ クルディスタン・イスラム協会の英語名、Kurdistan Islam Group の略。クルド語では、Komelî(協会) Îslamî(イスラムの) Kurdistan の略。

キルクーク問題

・PUKの帰還

PUKは8日夜、キルクーク内の拠点にクルディスタン地域の旗を党旗と並んで掲げた[8日、ルダウ]。



キルクークは昨年11月以来人民動員軍とイラク連邦警察の支配下にある。この行動はイラク中央とイラン支援の民兵の支配に対する明らかな挑戦である。PUKのペシュメルガが撤退したとの情報により、キルクークを人民動員軍に明け渡した戦犯との誹りを受けてきた。これに対しイラク首相マフディは「違憲だとし直ちに旗を下すよう命令した」[9日、ルダウ]。係争地キルクークは憲法で定めたクルディスタン地域外にあるから、そこに同地域であることを示す旗を掲げるのは違憲というのがマフディの理屈である。イラク特殊部隊が市内に配置され PUKに猶予を与え旗を下すよう勧告した [10日、プレステレビ]。PUKは11日には小規模な支部事務所から旗を下した [11日、ルダウ]。キルクークの本部においては相変わらず掲げ続けた。PUKキルクーク本部は余計な争乱を避けるため本部においてのみクルディスタン旗を掲げることにしたと発表した。

・アメリカ軍駐留騒動

先月のシリアから撤退した

7日、キルクークの K1 空軍基地にアメリカ軍部隊が到着し、同基地を活動拠点にしようとしていると報じられた[7日、NRT]。イランのメディアは現地住民がアメリカ軍部隊の配備に抗議しているという人民動員軍指揮官の証言を伝えた[11日、プレステレビ]。クルド人農民から土地を篡奪したアラブ系住民の懸念かアメリカの対イラン作戦に関する自らの警戒感を吐露している見るべきである。バドル軍団の現地指揮官は人民動員軍の間ではアメリカ軍部隊に反撃するため武器弾薬を民兵に配布されていると発言した [20日、バスニュース]。現地からの情報によればアメリカ軍部隊はトゥズ・フルマトウにも配置された [23日、バスニュース]。イランはキルクークの石油をイラン領内へ密輸していた

イランはISがシリアで崩壊の瀬戸際にあることをイラクからアメリカ軍を追い出す好機と見ている。アメリカ大統領トランプが先月シリアからの撤退を打ち出したことも追い風となる。アメリカは自軍撤退によりイランのイラク進出に対するタガが外れることを懸念する。アメリカ国務長官ポンペオがイラクを訪問し人民動員

軍の武装解除について話し合うという情報が流れた。マフディは15日、[記者会見でこのような噂を一蹴し人民動員軍はイラクの内政問題だと協調した](#)[16日、ルダウ]。アメリカ軍が人民動員軍部隊を空爆したという情報も流れたが、[イラク国防相はこれを否定した](#)[21日、バスニュース]。イランは人民動員軍に関するアメリカの懸念を逆手に取った情報戦を仕掛けているとも考えられる。アメリカがイラク政府の要請無くして人民動員軍の解体のため積極的な行動を起こせば内政干渉となる。イランはイラク国民にアメリカが不当な介入を行っている印象付けようとしているのである。

イランの支援を受けるシーア勢力「真実の民連盟」指導者カイス・ハザリは28日、[APの取材に対しイラク議会の過半数はアメリカ軍の撤退に同意していると話した](#)[28日、NRT]。最初は政治的解決を目指すのが、叶わなければ武力によって外国軍を追い出すと意気込んだ。シーア勢力は議会で多数派を占めるが壁もある。サドル運動の議会関係者は[クルドとスンニはアメリカ軍の撤退に反対していることを認めた](#)[29日、ルダウ]。国民議会第4党KDPを中心とするクルド勢力はイランの撤退をアメリカ軍撤退の条件にできるかが焦点となる。

トルコの侵略行為

トルコの主権侵害

トルコはクルディスタン労働者党(PKK⁶)掃討を名目としたイラクへの侵略的行為を継続し、行動はエスカレートしている。トルコ軍はPKK本拠地カンディル山に近い地域で[市街地に近い地点に空爆を行った](#)[20日、ルダウ]。人口密集地付近での空爆はトルコの15年にわたるイラク侵略の歴史の中でも初めてのことだという。トルコがPKKを標的にしているというのは嘘で、イラクのクルド人を威嚇するために空爆を行っていることが改めて明らかになったと言える。でなければPKKの山岳拠点を中心に爆撃を行い誤爆により多数の死者を出す可能性のある市街地付近で空爆は行わないだろう。トルコ側は軍事行動だけではなく人道支援も行っているとアピールする。トルコ赤新月社は20日、[ハラブジャで国内避難民に対し支援物資を配布した](#)[21日、自由]。同団体イラク代表は昨年9月以来65000人の避難民に支援物資を配布したと語った。支援活動それ自体は歓迎されるものである。その政治的意図については議論されなくてはならない。同団体のイエメン支援キャンペーンは明らかに敵国サウジへの非人道的行為に対するプロパガンダ活動だ。シリアのアサド政権もトルコの支援団体はテロ組織支援のハブだと主張し警戒を強めている。

クルド人住民がトルコ軍基地を占領

今月はトルコ軍が空爆をしクルド人が死んだ、というだけでは終わらなかった。25日、ドホークとバルザンの間にある小村で[トルコの空爆以来行く不明になっていたクルド人家族のメンバーの死体が見つかった](#)[25日、NRT]。現地住民はこの件に激怒しトルコ軍に対して抗議運動を展開した。デモ隊はそのまま近郊のシェラドウスのトルコ軍の拠点へ向かい、内部に押し入り軍車両に放火する等した。そして基地は行かれるクルド人住民によって占領されてしまった。[数人がトルコ軍兵士の銃撃で死亡した](#)と伝えられた[26日、

⁶ クルド語名、Partîya(党) Karkerên(労働者たちの) Kurdistanê(クルディスタンの)の略。日本のメディアで散見される「クルド労働者党」の呼称は誤り。

ユーフラテスニュース]。同地に配備されていたトルコ兵の大部分はさらなる騒動への発展を恐れ応戦せずに兵舎に引きこもった。そして、KRG に事態の收拾を委ねた。KRG 首相ネチルワンはトルコ外相チャブシオールと電話会談を行い、[事件の捜査を開始したと伝えた](#)とされる[26 日、NRT]。



KRG 治安部隊は[ドホークとシェラドウスで数十人の住民を摘発した](#)[27 日、メソポタミア通信]。事件の推移を当初から報道していた新世代系メディア NRT のドホーク事務所が 27 日、[治安部隊によって閉鎖](#)させられた[27 日、NRT]。ネチルワンがクルディスタンの安全のためいくつかのメディアに厳しい措置を取ると発言した直後の出来事であった。トルコ国防省は [PKK の挑発行為によりイラクの基地で損害が生じた](#)とコメントを発表した[26 日、NRT]。トルコとして現地住民がトルコ軍への怒りから立ち上がったという事実は認めがたいものであった。イラク政府はトルコの大使を召喚し、[今回の事態は招いたトルコの主権侵害行為に対し抗議](#)した[26 日、イラクニュース]。今回の一件の大きな意義はクルド民衆が自ら、トルコの嘘、プロパガンダを正面から打ち砕いたことであった。トルコ政府は自国内で唱えていると同じく「PKK はクルド人の敵であり、トルコ軍はイラクでクルド人のために行動している」と主張してきた。また、PKK がいなければトルコ軍は空爆しないので、空爆の被害に苦しむ現地住民は PKK を憎んでいるとも主張していた。しかし実際には、クルド民衆は誰が敵なのかをはっきり認識しておりトルコの離間策に惑わされていないことが示された。PKK がこれら住民を動員したという証拠はないが、自由運動の一件に対し手痛い反撃を喰らわすことができたと言える。トルコは PUK を唆し PKK の合法的なフロント政党である自由運動の事務所を閉鎖させた。トルコは PKK に友好的な PUK を使った攻撃はさぞ効くと思ったに違いない。現地住民の直接行動はイラク領内の PKK にこれまで与えたどんな損害よりも大きな痛手をトルコに与えた。トルコのイラク侵略の正当性を崩壊させ、また占領軍追放のための戦術を与えてしまったのである。

ロジャバ（西クルディスタン、北シリア）

Rojavayê Kurdistanê



ジャジーラの嵐

ISの壊滅

人民防衛隊(YPG⁷)を中心とする連合軍シリア民主軍(SDF⁸)と有志連合はトルコの出方を伺いながら少しずつISの壊滅に向け「ジャジーラの嵐」作戦を進めている。アメリカ軍は元旦早々からISに新年を祝う暇も与えず激しい空爆を加えた[1日、シリア人権監視団]。18日にはISが司令部として使っていたモスクを破壊する戦果もあった[18日、ルダウ]。12日には300人程の部隊がバグズ他ISが残る地域を解放するため前進を開始したと伝えられた[12日、シリア人権監視団]。SDFと有志連合軍は22日夜バグズの市街地を制圧した[23日、シリア人権監視団]。これでシリアにおいてISが支配する町は消滅した。郊外にはまだなおIS戦闘員が残存しておりSDFは進撃を続けている。ISは先月行われたような大規模な反撃を行う能力をもう残していない。散発的なテロでSDFに小規模な被害を与えるだけである。ハサカ郊外で有志連合軍の車列を狙った爆弾テロが発生した[21日、ルダウ]。SDFは犠牲者はいないと発表した。シリア国営テレビは4人死者が出たと発表した等数人の犠牲が出たという情報が有力である。大勢は変わらない。ISを間接的に助けているのはトルコにシリア反体制派だ。ISが人間の盾にしている事実やSDFが市民の犠牲を減らすために慎重に作戦を進めていることは無視しIS壊滅に伴う犠牲を強調する。さらに悪質なものは出所の怪しい情報を元にSDFによる虐殺を演出することだ。シリア反体制派系メディアは4日、地元メディアの情報を引用しSDFがデリゾール郊外の一家を虐殺したと報じた[4日、シリアの声]。SDFはその家

7 人民防衛隊のクルド語、Yekîneyên(部隊) Parastina(防衛) Gel(人民)の略。

8 シリア民主軍の英語名 Syria Democratic Forces の略。彼ら自身はアラビア語名 Quwwät(部隊) Sûriya(シリア) al-Dîmuqrâbiya(民主的)の略QSDをよく用いる。またクルド語では Hêzên(「力」すなわち軍の意) Sûriya(シリア) Demokratîk(民主的)を略して HSDと呼ばれる。

族にISに關与したとの嫌疑をかけ一家全員を殺害したというものだ。SDFが無抵抗の家族をいきなり全員殺すということはあるのか。先ず逮捕するのが普通ではないか。SDFは実際怪しげな現地人を逮捕しておりそれが現地住民の反発を招く事実はある。このような事件があればISがSDFのふりを市民を殺害する「偽旗作戦」の可能性も検証されなければならない。

IS 捕虜問題

ISの壊滅が近い一方で外国人捕虜の処遇は大きな問題だ。SDFがISから支配地を解放していく度に外国人捕虜も増えていく。7日には[2人のアメリカ人戦闘員がSDFの捕虜となったのが話題になった](#)[7日、アラブニュース]。CBSは昨年[SDFの捕虜となったテキサス出身の黒人の独占インタビューを放映した](#)[16日、CBS]。彼は「ISがどのようなものか知りたかった」とか「ISの処刑については知っていたがそれは(黒人が警官に射殺される)アメリカも同じだと思った」と語った。北シリアの住民は厳しい状況の中乏しいリソースを分け合って生活しているのに、このような愚かな外国人の面倒まで見なくてはならないのである。SDFは出身国が責任をもって引き取るべきとしているが、それらの国とテロリストの帰国は望まずクルド側が負担を肩代わりさせられる状況が続く。当事国はせめて捕虜収容所の運営費を負担すべきである。またテロリストの再教育プログラム実施のため専門家を派遣し現地スタッフを育成することも必要だ。国際社会は現地に負担を押し付けることなく、IS外国人捕虜問題に関して北シリアに対する支援の枠組みを整えなければならない。

ISの捕虜はSDFのプロパガンダの手段ともなる。クルド系メディアはパキスタン出身のIS戦闘員による[トルコで訓練されシリアへ移送されたとの証言](#)を報じた[21日、ハワルニュース]。捕虜自身が待遇改善を期待してクルド側の求める作り話をしているという可能性は排除できない。未だ謎が多いISの勃興と拡大において重要な情報が得られることは期待できる。

ユーフラテス東岸地域

トルコ軍侵略の危機

トルコは新年から[シリア国境へ部隊の配備](#)を続けた[2日、アナトリア通信]。政権寄りのメディアは[8万人の部隊が作戦行動を開始できる](#)と報じた[14日、新たな夜明け]。越境作戦が開始されればキプロス侵略を越える過去最大規模の軍事行動となる。国防相アカルは[シリア国境地帯のトルコ軍部隊を訪れ、兵士や将校たちを前にユーフラテス川東岸地域への侵攻の重要性を訴えた](#)[11日、アナトリア通信]。ニューヨークタイムズ紙は[トルコのシリアにおける軍事行動に関するエルドアン](#)の弁明をコラムとして掲載し話題を呼んだ[7日、NYT]。その中でトルコは現地の若者の過激化を防ぐ包括的な対テロ戦略があると豪語した。アフリンとジャラブルス、アルバーブといった狭い占領地すら安定化できていない現状彼の言う「戦略」は笑い話でしかない。またエルドアンは同コラムの中でヒューマンライツウォッチのYPGによる人権侵害の報告に

言及した。これに同団体代表はエルドアンは都合のいい報告だけをかいつまんで利用していると批判した[9日、ルダウ]。

民主統一党(PYD⁹)を中心とする北シリア連邦指導部はトルコの脅威にただ手をこまねているわけではない。シリア民主会議(MSD¹⁰)共同議長は北シリアはトルコの攻撃に対し準備をしていると発言した[17日、電子新聞]。それは防衛力を高めることは勿論であるが外交交渉を通じた問題解決を目指すということだとする。また、トルコはアメリカの同意無しには軍事行動を実行できないと指摘した。

アメリカの撤退

昨年末トランプが突如シリアから完全な撤退を表明したことで、アメリカによる「クルド利用論」、「クルド放棄論」が蒸し返された。トルコ側はクルド側最強の盾であるアメリカ軍部隊撤退を北シリア全域への侵攻の好機だと見ている。トルコとの期待とは裏腹にアメリカは北シリアから全面撤退する素振りを見せず、クルド勢力への肩入れを続ける構えだ。アメリカ国務長官ポンペオはクルド人がトルコに虐殺されることないよう守ると発言した[3日、状況]。トルコ側は直ちにポンペオの発言を「知識の欠如による杞憂」だと反論した[4日、AFP]。ポンペオはトルコ外相チャブシオールと電話会談を行いトルコとクルド勢力の双方にとって良い解決策はあり得ると楽観的観測を述べた[12日、ロイター]。トランプの大統領補佐官ボルトンは8日、同じくエルドアンの大統領補佐官イブラヒム・カリンと会談し有意義な議論ができたと言った[8日、ロイター]。一方でアメリカ軍の撤退後にクルド勢力を攻撃してはならないと言ったことでエルドアンの怒りを招いた。エルドアンは議会でボルトンの発言は決して承服できないと演説した[8日、24TV]。トランプは13日、トルコがもし北シリアのクルド勢力を攻撃したらトルコ経済を壊滅させるとツイートした[13日、AFPBB]。一方でクルド人にはトルコを挑発してほしくないとツイートしクルド側にも釘を刺した[14日、@realDonaldTrump]。北シリアのクルド勢力はトルコの挑発したことはない。トルコが侵略するなら反撃すると主張しているだけだ。前対ISIS特別大使ブレット・マクガークはトランプのシリア政策についてワシントンポストに寄稿し、トルコは信頼できる同盟相手ではないと評した[18日、ワシントンポスト]。アメリカ政府がトルコに決して明かさない本音を漏らした形になった。前述のエルドアン補佐官カリンはこれに対し、マクガークの分析は馬鹿げておりPKKのプロパガンダに加担してるだけだと子供じみた反論のツイートをした[20日、@ikalin1]。アメリカ軍は11日、シリアから撤退を開始したと発表した[11日、自由]。直後に国防総省はアメリカ軍は装備を撤去したのみで部隊の撤退は実施していないと発表した[12日、AFP]。撤退開始のその日にコバニに150台もの武器弾薬を満載した車列が到着したとの情報が流れた[11日、シリア人権監視団]。トルコ国営通信は28日、アメリカ軍の増援600人がハサカに到着したと報じた[28日、アナトリア通信]。アメリカは撤退したいがトルコによるユーフラテス川東岸侵攻の可能性がある以上できないということだろう。

9 PYD—民主統一党のクルド語、Partîya(党) Yekîtiya(統一) Demokrat(民主)の略。

10 クルド語の正式名称 Meclîsa(アラビア語で会議の意) Sûriyeya(シリア) Demokratîk(民主主義)の略。英語名 Syrian Democratic Council'sの略称SDCも使われる。

安全地帯

PYD はこれまでも飛行禁止区域の設定を求めており、それぞれの勢力が自分に都合のいい安全地帯構想を掲げ設定への道のりは遠い。クルドはトルコの侵略を防ぐために、トルコは北シリアを実行支配するために、アサド政権は北シリアに主権を回復するためにという具合である。

トランプは前述の「トルコ経済壊滅」ツイートの直後にエルドアンと電話会談し安全地帯構想についても議論した[14日、ルダウ]。会談後の双方の声明において具体的な取り組みについては言及されなかった。トランプはトルコの「安全保障上の懸念」に寄り添う姿勢を示したと見られる。トルコは声明で北シリアの平和のためアメリカの取り組みを支援すると表明したが本心は異なる。エルドアンはトルコが安全地帯を管理すると主張している[15日、情況]。トルコは既に傀儡勢力が内戦での敗北が決定した今、少しでも多くのシリア領を自国領に組み込むこと、クルディスタン独立への恐怖から PKK の兵站になり得る北シリアを手中に収めることに全力を注いでいる。有志連合国中心に国際社会がトルコの主張を認めることは難しい。これまでシリアに IS 戦闘員志願者が流入した原油の密輸を防げないことを、シリアとの国境線が長すぎると言い訳してきた。それが安全地帯の管理というより困難な任務が突如可能になるのはどういうことなのか。北シリアのクルド勢力壊滅を IS に期待したがそれが叶わないなら自ら北シリア支配に乗り出す露骨な野心を見せつける。エルドアンはトルコの住宅供給公社による北シリアの住宅再建案も明らかにしている。トルコの建設業者に対する利益誘導でもあり、トルコのインフラにより北シリアを実行支配をしようとする植民地政策だと警戒されて然るべきものだ。

クルド側はトルコが影響力を及ぼすことを排除しかつ正当性をアピールするため国連による安全地帯管理を求める。有志連合各国内で高まるクルドを見殺しにするな、という声も追い風とする。ドイツ連邦議会のキリスト教民主同盟所属議員は国連主導の緩衝地帯の設定を求める発言を行った[2日、クルディスタン 24]。そしてクルド側もそれに追従するように声明を出した。SDF は 16 日、国連主導の安全地帯設定を支持する発表した[16日、クルディスタン 24]。全ての民族の安全を保障するのが最優先課題だとした。トルコはクルド人を目の敵にしているので、トルコを排除しなければ諸民族の平和は達成されないという論理である。

ロシア外相ラブロフは 16 日、アサド政権は北シリアを支配下に入れるべきだと発言した[16日、クルディスタン 24]。トルコが安全地帯を単独で管理すると表明したことに警戒した。PYD 共同代表ハーフィズ・ハサンは同日、ロシアがアサド政権との交渉を支援することを望むと発言した[16日、PYD]。トルコがオスマン帝国の栄光を取り戻すためシリアを占領しようとしていることに言及した。シリアにとって共通の敵から国土を防衛するために協力する必要があることを暗に呼びかけた。北シリア当局は北シリアの自治を守りながらアサド政権勢力下に再統合するため、SDF を国境警備隊とする案を発表した[19日、クルディスタン 24]。北方ではトルコの侵略に備え、東方ではイラク側と共同で IS 支配地を攻撃する等国境警備の任務を果たしている。既にシリア・アラブ軍の補助部隊として「祖国防衛隊」という準軍事組織があることも大きい。同組織と同様の法的地位獲得を目指す見込みだ。SDF が国民防衛隊のような民兵組織として法的地位獲

得を目指していることはこれまでもアナウンスされてきた。国境警備隊構想の背後には北シリアの自治維持だけではないより大きな戦略もある。それは国境をおさえることでトルコ領北クルディスタンとシリア領西クルディスタンを連結することである。クルド側の案がアサド政権側と大筋で合意されれば、国境線を変えることなく、シリア国家の枠組みを破壊することなく、北クルディスタンとの統合が可能になる。一方、ロシアは有志連合国抜きで和平プロセスを支えるトルコに配慮もした。プーチンとエルドアンは23日、[シリア問題について会談した](#)[23日、自由]。トルコ外相チャブシオールは会談後、プーチンは[1998年のアダナ合意に基づきトルコがシリアに介入する権利があると認めたと発表した](#)[24日、自由]。トルコはプーチンのアダナ合意に関する発言をロシアがトルコの安全地帯管理に賛同したと解釈する。本件に関する報道を詳しく読めば分かることであるが、プーチンはトルコ単独の安全地帯管理に賛同したわけではない。エルドアンはまたしてもプーチンの宥めすかし戦術にはまっているようだ。

湾岸諸国の動向も注視されなければならない。サウジの「サルマン王記念人道支援並びに救済センター」は11日、[北シリアにおいて燃料とガスシリンダーの提供を行ったと発表した](#)[11日、サルマン王記念人道支援並びに救済センター]。トルコはカタール支援始め湾岸への介入を進め、カショギ氏殺害問題においては情報を小出しにしながら皇太子ムハンマドを揺さぶった。サウジやUAEはトルコへの反撃とばかりに北シリアのPYD支援に乗り出し、平和維持軍の派遣も検討している。

トラスラに翻弄されるトルコ

トラスラがトルコを揺さぶっている。トラスラはトルコが停戦維持の要とする反体制派の野合集団である国民解放軍を圧迫しているのだ。国民解放軍報道官は8日、イドリブ中心部につながる[4つ重要拠点がトラスラの攻撃で陥落したと発表した](#)[8日、トルコ詳報]。停戦区域内ではテロリスト同士が激しい戦いを展開しており、トルコはそれをただ傍観している。アサド政権との戦闘でないことでもかろうじて停戦は保たれているということにして格好だ。イドリブでトラスラに対抗措置を取れないトルコは、テロリストの安全地帯である自国領内で摘発を強化するという情けない有様だ。トルコ警察は13日、[各地でトラスラの一斉摘発を行い政権寄りメディアにその模様を公開した](#)[13日、朝刊]。これに対しトラスラはトルコの懐柔を目論む。トラスラの指導者ジャウラニは14日、突如[プロパガンダ動画に出演しトルコのユーフラテス川東岸侵攻作戦に賛意を表明した](#)[14日、クルディスタン24]。トラスラが部隊を派遣するといった具体的な内容には踏み込むことはなかった。

トルコが侵攻作戦を実施するならその間は停戦区域で大人しくすることを考える、しかしトルコの対応如何によっては侵攻作戦を妨害することもできると読み取れる。トラスラは23日、[アサド政権側部隊に攻撃を行い政権側も反撃のため砲撃する](#)という事態になった[23日、シリア人権監視団]。トラスラが活発になればテロ組織掃討の名目でアサド政権がイドリブ作戦を開始する口実になる。そうなればロシアもトルコの肩を持つことはできない。国民解放軍に属するテロ組織神の栄光軍司令官は反体制派メディアの取材において、[全ての反体制派勢力にアサド政権の大攻勢に備えるよう警告した](#)[25日、シリアの声]。トラスラは昨年内戦開始から7年を経て初めてトルコにテロ組織と指定された。とはいえトルコはトラスラの本格的な掃討には

未だ及び腰だ。反政府勢力の要であるヌスラを壊滅させることは同時にシリア内戦をアサド政権の勝利で終結させることにつながる。トルコの弱点を利用し反体制派支配地で勢力を拡大しているのだ。

マンビジュ(Minbic)

頻発する自爆テロ

マンビジュではトルコがマンビジュ攻略を検討し始めて以来爆弾テロが頻発するようになっている。SDFの一員であるマンビジュ軍事委員会(MMC¹¹)とアメリカ軍部隊は警備を強化しているが防ぎきれていない。

16日、[マンビジュ市内で爆発が発生し市民とアメリカ軍関係者に死傷者が発生した](#)[17日、ロイター]。

17日、MMCは[トルコのスパイ7人を逮捕したと発表](#)し逮捕者と押収した武器等を公開した[17日、MMC]。



MMCは逮捕された7人はスパイ活動の他に多くの爆弾テロを計画していたと発表した。[アメリカ政府はISが今回のテロ事件を引き起こしたと見ている](#)ことが報じられた[18日、ロイター]。2016年に同地のISが敗走して以来、付近でIS復活を示す動きはない。2017年2月にはトルコがIS支配下のアルバーブを攻略しIS支配地はマンビジュ郊外から消滅した。ISからの解放以来昨年から今年に入り一番の情勢変化はトルコの脅威の高まりである。PYDは広報サイトで[トルコが今回の事件の背後にいるとするSDF傘下の部族長のコメントを発表](#)した[17日、PYD]。トルコの傘下勢力が今回のテロに関与していたならば、間接的にNATOの同盟国アメリカに攻撃を仕掛けたことになる。エルドアンは20日、トランプに電話しトルコは[マンビジュの安全保障任務をアメリカ軍部隊から引き継ぐ用意があると発言](#)した[21日、ロイター]。エルドアンは傘下勢力に治安のかく乱をさせた後に、トルコ軍の進駐で平和と安全が実現したと演出する腹積もりだ。そうならば今度はMMCやSDFの戦闘員が潜入分子となり、トルコ軍とその傘下勢力にテロを行うことになる。アフリン同様SDF統治以前より治安は悪化し、デリゾールから敗走したIS戦闘員の避難地にもなり得る。MMCとアメリカ軍部隊は25日、[共同で潜入分子の摘発作戦](#)に乗り出した[26日、ハワルニュース]。作戦に傘下した兵士によると16日の爆弾テロに関与した人物の逮捕に成功した。

¹¹ 英語名 Manbij Military Council の略。クルド語では Meclîsa(会議) Leşkerî(兵士) ya Minbicê(マンビジュ)。彼ら自身はアラビア語名 almajlis(会議) manbij leaskari(兵士)を用いる正式名称は「マンビジュ並びに郊外防衛のための軍事委員会」。

トルコの攻勢

トランプが先月シリアからの早期の撤退の実施を突如発表し、アメリカ軍は今月部分的な撤退もアナウンスした。アメリカ軍部隊は相変わらずマンビジュに留まっているが、今後撤退する際には SDF に供与された装備はどうなるのかという問題が浮上する。アメリカはこれについて撤退とは真逆の動きを見せる。シリア人権監視団は 4 日、先月武器弾薬他補給物資を満載し同地に到着した有志連合軍の車両が荷台を空にし走り去る動画を公開した[4 日、シリア人権監視団]。アメリカはトルコの侵攻に備えて MMC の防衛力を増強していると思われる。トルコはアメリカが合意を履行しない場合マンビジュ攻略を実行するとしているが、アメリカとの衝突を恐れ行動できないまま徒に日々を過ごしている。トルコ傘下の反体制派勢力の指揮官はロイターの取材に対し、マンビジュ攻略の準備はできていると豪語した[16 日、ロイター]。ゴーサインを出すのはあくまでトルコであり、傘下勢力は準備中のまま待たされていることへの苛立ちを伺わせる。アメリカはトルコとの共同警備を行うことはなく、トルコ軍と傘下勢力の動向を注視する。MMC は 26 日、アメリカ軍のヘリがマンビジュ近郊の偵察を行ったと発表した[26 日、MMC]。NYT がエルドアンのコラムを掲載したことに触れたが、23 日に MMC 司令官のシェルワン・ダルビッシュによる「北シリアは安全地帯を必要とする」と題したコラムも掲載した[23 日、NYT]。ダルビッシュは IS の壊滅が近い中、新たな敵トルコへの対応を迫られていると訴えた。トルコはマンビジュを元の所有者に還すとの主張を、アフリンの例を引きトルコと傘下のイスラム主義者の支配に帰すだけだと一蹴した。

アフリン(Efrîn)

紛争オリーブ

アフリンはオリーブの大産地として有名である。アレppo石鹸として知られるオリーブ由来成分を用いた石鹸にはアフリン製のものも多い。アフリンの風景とは即ち一面のオリーブ畑である。トルコがアフリンでオリーブの木々を「テロリストの隠れ処」であるとして切り倒したり、火を放っていることは繰り返し報じられてきた。トルコはさらにオリーブを略奪しており、それをトルコ産と偽り EU 市場始め世界市場に横流しているのではないかという疑念が広がっている。昨年 11 月には、トルコ農相がアフリンのオリーブを接收し市場に流していることを認めた[11 月 18 日、クルディスタン 24]。アフリンはトルコの勢力圏であり PKK の資金源になり得る物資を接收する正当性を主張した。理由はともかくとしてオリーブを略奪していること自体は政府公認なのである。トルコの農産物の主要な輸出先であるヨーロッパではこのような問題に敏感だ。スペイン議会上院議員は、税関の報告書を示し政府に対しトルコがアフリン産オリーブ関連商品を自国産と偽り国内に流入している事態にどのように対応するのか質問した[29 日、公論]。オリーブは黒いダイヤとも呼ばれる。紛争ダイヤモンドならぬ紛争オリーブ問題は、トルコ産オリーブに血なまぐさい印象を植え付ける。EU 加盟国にはシリアのクルド人に同情的な人が多く、EU や加盟国が輸入規制措置を行わなくても不買運動が起こる可能性は高い。

▶アラブ系住民の入植

トルコ内務省が5日発表したところによると昨年中に29万5千人のシリア難民がシリアへ「帰還」した。これはトルコが昨年3月にアフリンを制圧したことにより難民の受け入れ先が確保できたことによる。難民を帰還させたのではクルド人地域にアラブ系住民を入植したというのが正しい。これらシリア難民はアフリンの住民ではないからである。トルコがアフリン侵攻を開始してクルド人30万人以上が追放されたと言われる。上述のトルコ政府発表の数字と帳尻が合う。トルコの傀儡政庁であるアフリン市政評議会は[アフリンに流入したアラブ系難民の住民登録並びに身分証の発行を開始](#)した[14日、ルダウ]。クルド系住民の追放と表裏一体の民族分布変更政策の一環である。また、身分証の交付を受けたシリア難民の将来に禍根を残す施策でもある。アフリンがアサド政権、PYDいずれの支配下に戻ったとしても、それら身分証は無効となる。アフリンに入植されたシリア難民はトルコの支配が揺らいだ瞬間にまた難民となる可能性があるのだ。

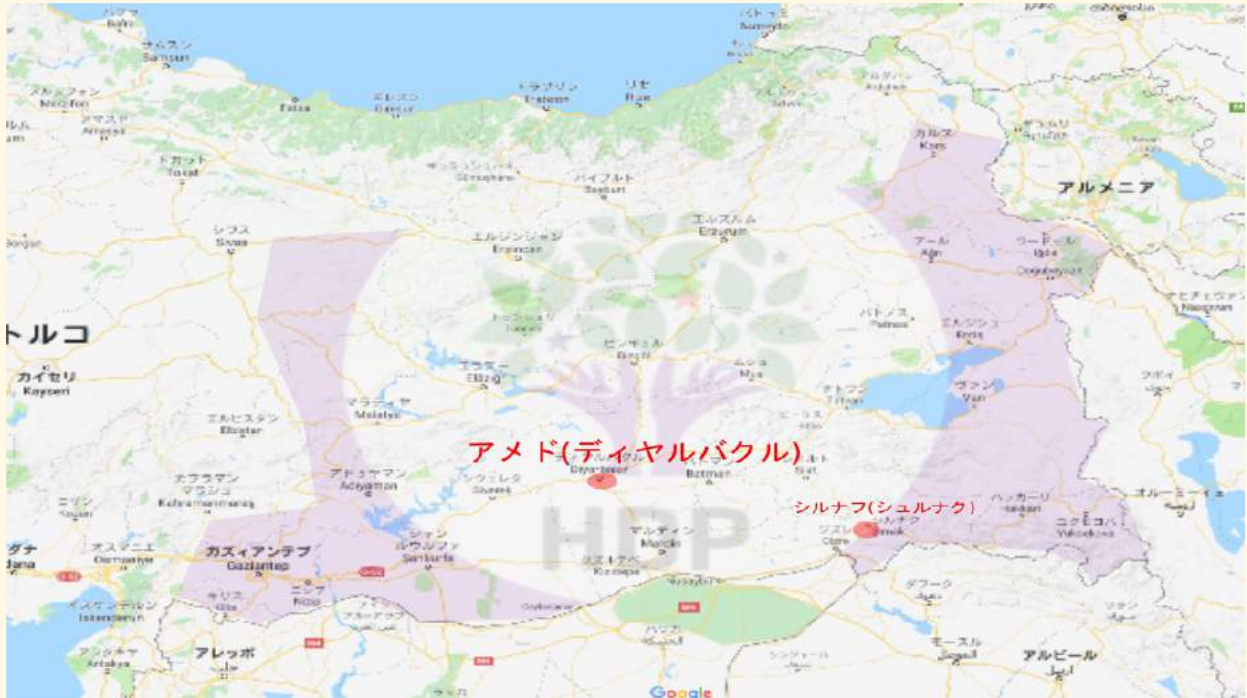
▶アフリンの混沌

アフリンではトルコの支配への抵抗運動が続く。トルコ傘下勢力の強欲ぶりはトルコが制止を余儀なくされるほどだ。連中は[アフリン全住民を追放しその財産全ての譲渡を要求するも、トルコは国際社会からのこれ以上の批判を恐れ「待て」と命じているのだ](#)[1日、シリア人権監視団]。このようなトルコ傘下勢力への住民の反感はクルド勢力のゲリラ活動を容易にする。アフリン解放軍(HRE¹²)は元旦から活発にトルコ傘下勢力を襲撃した。HREは4日、[1日にトルコ傘下勢力を奇襲し2人を負傷させ、また2日にも3人を殺害し数人を負傷させた](#)と発表した[4日、HRE]。この他にも現場の画像、映像も添えて月末まで数回戦果報告をした。23日にトルコ傘下のイスラム主義勢力「[東方の自由民](#)」の司令部付近で自動車爆発し構成員3人が死亡した[23日、クルディスタン24]。20日にはアフリン中心部でバスを狙った爆弾テロが発生し少なくとも3人が死亡し12人以上が負傷した[20日、クルディスタン24]。シリア国営テレビはテロ行為だと非難した。もしHRE他クルド勢力が実行したのであれば非難されて然るべきであるが詳細は不明である。トルコのアフリン支配は傘下勢力同士の抗争により常に動揺する。25日、[東方の自由民の戦闘員が東グータ出身者の武器商人を殺害](#)するという事件が起きた[25日、シリア人権監視団]。それが[東方の自由民と東グータから逃れたイスラム軍との戦闘に発展](#)した[26日、シリア人権監視団]。東グータ出身者が破壊されたカワ像付近に集まり[東方の自由民の戦闘員を処罰するよう要求](#)した[同上]。アサド政権がダマスカス近郊からイスラム主義勢力を追放した際、その多くがアフリン他トルコ支配地に逃れトルコの傭兵となった。トルコは新参の傭兵と古参の傭兵の調整に無能力であり、アフリンの治安はクルド勢力の活動なくとも乱れるのである。

12 クルド語の組織名、Hêzên(軍) Rizgariya(解放) Efrînê(アフリンの)の略。

北クルディスタン（トルコ領南東部）

Bakurê Kurdistanê



迫る地方選挙

・クルド統一戦線

トルコでは3月31日に地方選が実施される。エルドアンはこれを野党壊滅の最後の一手にしようと目論む。神の党(クルド・ヒズボラ)を除くクルド系諸政党は来る決戦に向けて、**最大勢力の人民民主党(HDP¹³)の旗の下統一戦線を結成**した[7日、ユーフラテスニュース]。各党派の代表たちは記者会見において、「共に手を合わせよう、故郷は我々を待望する」と書かれた横断幕を背景に結束を誓い合った。



¹³ トルコ語の党名、Halkların(諸人民または国民の) Demokratik(民主主義) Partisi(党)の略。

この統一戦線は選挙対策以上の意味を持つ。実際 HDP 共同代表テメリは、記者会見の最後に4つに分割されたクルディスタンに対する敵意とそれぞれの政府による抑圧政策に抗するものとして、この統一戦線は非常に重要とコメントした。統一戦線がクルド人解放の歴史的視座の元結成されたことを明らかにしたのだ。今後内戦になるにせよ、平和的にエルドアン政権が打倒されるにせよ、クルド人の統一的意思決定が必要となる。その意味でこの統一戦線は、シリアにおいてPYDが内戦開始後にトルコに与する勢力を除き伝統的勢力を中心に諸政党をまとめ、北シリアの自治政府樹立したのと酷似する。PYDがシリア・クルディスタン民主党を共同統治主体に加えたように、トルコ・クルディスタン民主党が統一戦線に参加する。トルコ領クルディスタンの自治に向けた布石と言われなければならない。

▶最大野党との協力体制

エルドアン政権が過去最大級の選挙不正・妨害を仕掛けてくるのが濃厚だ。最大野党の共和人民党(CHP¹⁴)は登録されている [6000人以上の有権者が100歳を超えているという報告書を公表](#)した[16日、自由]。最高齢の有権者は世界記録を塗り替える165歳であった。エルドアン政権は不正選挙の余地を多数残していると見られる。このような状況の中、HDPとCHPは何らかの選挙協力を迫られている。候補者の調整といった「野党共闘」は選挙結果を左右しうる。先の選挙でCHPといい党は統一戦線を張ったが、HDPは単独で選挙に臨んだ。HDP報道官は26日、[CHPと共闘についての交渉は何ら行われていないと発言](#)した[26日、アナトリア通信]。しかしHDP報道官は28日、[イスタンブール、アダナ、イズミルで候補者を立てないと発表した](#)[28日、アナトリア通信]。イズミルはCHPの支持者が多い地域であり、協定が無くとも候補者の調整は行っている模様だ。あるCHP議員は[テレビの討論番組でHDPが3都市での候補者を立てないことに話題が移るとHDPとPKKのつながりを否定](#)した[28日、スター]。政権寄りコラムニストは、CHPがHDPと協力しようとしていることについて、[HDPと妥協すればもはやトルコの政党ではなくなると厳しく非難](#)した[29日、新たな夜明け]。

クルド人への弾圧

▶ハンガーストライキに屈服したトルコ司法

トルコ当局に拘束されたHDP議員レイラ・ギュヴェンは、PKK設立メンバーの中心でありクルド解放闘争の思想的支柱であるアブドゥッラー・オジャランの幽閉に抗議するハンガーストライキを続けている。先月までは脅威的な継続日数を達成するも、健康を害しトルコ当局は沈黙を守るばかりであった。今月は遂にトルコ当局の妥協を勝ち取ることができた。12日、[オジャランの兄弟が2年ぶりに面会を許された](#)[12日、ルダウ]。トルコ当局がこのような決定を行った理由は定かではない、彼女に国際的連帯の機運が高まっていることや、シリア、イラクにおける反クルド行為に対する国際的批判に冷水を浴びせようという魂胆だと推測される。彼女はこの後も断食を続け、23日にはBBCが[彼女の断食が77日を突破したこととトルコメディアの](#)

¹⁴ トルコ語の政党名 Cumhuriyet(共和国) Halk(人民) Partisiの略。「トルコ建国の父」ケマル・アタテュルクが設立した政党である。

黙殺ぶりを報じた[23日、BBC]。そして79日目に裁判所はレイラ・ギュヴェンの保釈命令を出した[25日、ユーフラテスニュース]。



彼女は一人では歩けないほど衰弱しており病院搬送後自宅へ戻った。彼女はオジャランの幽閉が完全に終わるまでハンガーストライキを続ける意向であり、代償を払う覚悟はできていると解放後の声明で決意表明をした[27日、ユーフラテスニュース]。

・クルド人全体が敵

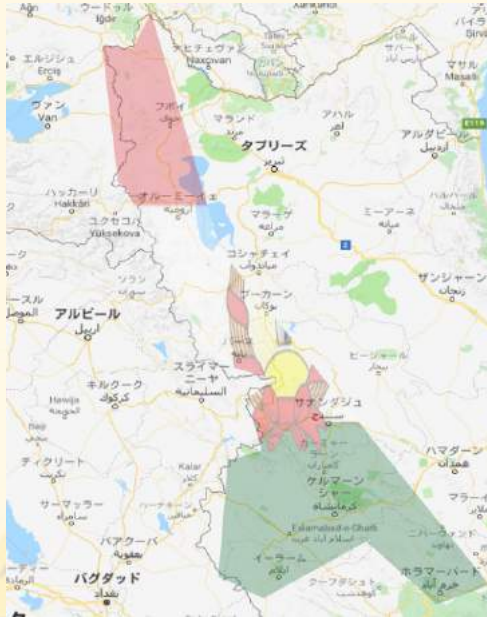
エルドアンはクルド人は友人とテロリストは敵とし、トルコは後者と戦っているのだと主張する。実際はクルド人全体をテロリストと見なす政策をとっている。トルコ警察は15日、ワンでクルド人村落の捜索を行い13人を摘発したが、その中に86歳の女性も含まれていた[16日、ユーフラテスニュース]。女性はPKKとは何の関わりもなく、健康上の問題があるにも関わらず当局は容赦しなかった。アメド(ディヤルバクル)近郊のリジェでは村落の封鎖、村人の逮捕といった弾圧を続けている。トルコ軍、警察は27日、リジェで村落の捜索と村人の摘発を行った[27日、メソポタミア通信]。村人は自分の土地なのに権利がないことを嘆き、この窮状を誰に訴えればわからないと途方に暮れる。こうした弾圧を経験したクルド人の若者の中にはPKKに入る者も多い。トルコは過去の失敗から学ばずPKKの再生産を続けている。

東地中海の危機

トルコは東地中海におけるガス田問題で周辺諸国に軍事挑発始め挑戦的な姿勢を強める。戦争を誘発するトルコの強気な態度にトルコの傀儡国家でも懸念の声が出る。北キプロス首相は、メディアの取材に対し天然ガス掘削問題の解決を求めると発言した[18日、クルディスタン24]。キプロス外相は18日、アメリカは地域の安定を脅かすとして禁止していたキプロスへの武器輸出を許可する見込みだと発言した[19日、AP]。アメリカはトルコをもはやNATOの最重要同盟国ではなく地域の安定を脅かす覇権主義国と見なし、それに立ち向かう国、勢力のパトロンに成りつつある。

東クルディスタン(イラン領西部)

Rojhilata Kurdistanê



クルド人労働者の虐殺

イラン当局はレジャーとでも言うかのようにクルド人ポーター「コルバル」に銃撃を加え続けている。新年早々3日、[イラン当局の銃撃によりコルバル2人が死亡し2人が負傷した](#)[3日、日報]。イランの人権監視団体は15日、[イラン当局によるコルバルの無差別殺害に関する記事を投稿した](#)[15日、イラン人権監視団]。全般的に経済的苦境にあるイランの中でも特に貧困層の多いクルディスタンにおいて、コルバルは生きるために強いられていること。イラン当局は法的に制約を受けることなくコルバルを見つけ次第銃撃していることを問題視した。

政治的弾圧

イラン各地で政府への不満から人々が抗議行動を繰り返す中、イスラム体制は過去独立宣言の「前科」があり1979年のイラン革命の際にも重要な役割を果たしたクルディスタンを注視する。クルド系メディアは、[新年始まってから1週間の間にクルディスタンで12人もの政治、環境活動家が逮捕されたことを明らかにした](#)[8日、日報]。こうした状況にPKK系列のクルディスタン自由生命党(PJAK¹⁵)は14日声明を発表し、[イラン当局の弾圧の強化に対しクルド人たちにイスラム体制へ抵抗するよう呼びかけた](#)[14日、ユーフラテスニュース]。

文責：一般社団法人日本クルド友好協会 研究員 並木宜史

15 クルド語の党名、Partiya(党) Jiyana(生命) Azad(自由) ya Kurdistan(クルディスタン)の略。